

# 平和がいちばん

2013年10月15日  
第76号  
平和で豊かな枚方を  
市民みんなでつくる会



日米軍事演習—オスプレイ反対集会 9月29日(滋賀県高島市)

## 原発事故収束・増税・秘密保護法 大嘘をつく安倍政権

秋の臨時国会を前に、安倍政権は力を入れる政策を前面に出してきました。

五輪招致のためのブエノスアイレスでの大嘘には驚かされました。「福島原発の状況はコントロールされている」「汚染水は港湾内で完全にブロックされている」「健康問題については今までも、現在も、将来も全く問題ない」。福島事故は収束したから原発再稼動も原発輸出も進めようという大嘘ですが、事故現場で必死に働く作業員、水産業再開の目途が立たない漁民、甲状腺がんと診断され手術を受けた子ども達、福島県をはじめ日本に住む人々、そして海を通じ大気を通じて地球が汚され続けていることに心を痛める世界の人々を欺き傷つけています。

安倍政権は来年度から消費税を8%に上げると表明しました。消費税は所得の低い者ほど負担率が高い税金です。景気の回復には消費の拡大が必要で、そのためには庶民の懐が暖かくなることが重要です。しかし増税です。生活者の消費が冷え込むのは当然です。安倍は景気対策と称して、

法人税減税を前面に押し出しました。大企業が儲かれば労働者の賃金上がるというのです。しかし企業は収益をまず内部留保に回し、労働者が口を開けて待っていても、企業の収益増が「滴り落ちてくる」保証はどこにもありません。また賃金アップが期待できるのは正社員だけであり、勤労者の4割近い非正規雇用労働者は期待すらできません。ここにも安倍の嘘があり、庶民から文字通り血税を吸い上げて大企業と富裕層に振る舞うための増税です。

情報統制にも躍起です。現代社会はツールが進化し、情報隠しにも限界があります。そこで出てきた「秘密保護法」案。「集団的自衛権」の行使を目論めば当然に軍事機密が増大します。

しかし「集団的自衛権」や「秘密保護法」などは、どのような詭弁を弄しても現行憲法と相反する内容です。憲法全体の改変は反対意見が根強いため、国会内過半数で成立する法律と内閣の「解釈」だけで、現憲法が規定する社会とは全く異種の社会の構築を狙っています。まさに「ヒトラーの手法」です。大嘘つきの安倍内閣に反対です。

## わわわのわ

福祉現場で働く者を大切にしない社会  
は 高齢者を大切にしない社会です

高齢者・障がい者に親身に関わり続ける

松田 久子さん



(9月29日・ひこぼえ)

彼女は専業農家で育った。父親が主導権を持ち、依存的な母親の姿を見て、女性は自立することが必要だと考えるようになった。そして生涯、働き続けたいと思い教師を志望し、大学は教育学部を選んだ。

入学した年は、折しも学費の3倍近い値上げが予定されている年で、反対運動が各大学で取り組まれていた。自分に直接かかわる問題として他大学の学生たちと国会要請行動にも参加した。運動の盛り上がりもあり、その年の前期の学費値上げは凍結された。行動を起こせば国の施策も変えられるんだという貴重な経験になった。また大学のサークル活動で、戦後の民主主義が教育も含めて右傾化の道をたどっている歴史を学び、改めてショックを受けた。

教員試験に失敗し教員の道はあきらめたが、自分に何ができるかなと考えたときに人間相手の仕事だったらやりがいもあり性格的にも向いているのかなと思い、求人広告で募集していた重度の障がい児・者の入所施設で看護助手として働きはじめた。以降30数年間、福祉の仕事にかかわり続けている。この施設では7年働いたが、「利用者の人権は守られているのだろうか」と常に問いかけていたという。入所者の食事にはお金をかけていたが、多動的な障害を持った入所者は抑制帯で身体拘束をされていたり、過剰な投薬や検査が行われるなど何度もショックを受けた。第一子出産後、交代勤務が無理になり転職をよぎなくされた。

転職した老人のデイサービス施設では、「利用者の笑顔が何より大切」と、柔軟な発想を持ったベテランの先輩介護士に出会い、利用者を大切に考える考え方に共感し、日々の仕事はハードだったが楽しく充実していた。しかし、二人目の出産で子育てと仕事の両

立が難しくなり、また取得していたケアマネジャーの資格を専門に活かせる職場に転職する。

これまでは社会福祉法人の職場だったが、今度は株式会社という全くの民間企業。福祉用具のレンタルや販売をメインに全国的に事業を展開している会社で、店舗に来た要支援・要介護認定を受けた人から相談を受け、ケアプラン（居宅サービス計画）をたてて介護サービスにつなげることが彼女の仕事だった。

この職場では「介護保険制度」のいろんな矛盾点に気付かされたという。国民の共同連帯の理念に基づき、社会全体で高齢者を支える仕組みとしてこの制度が導入されたが、実際は民間事業者が「もうかる産業」として参入を強めている。そして現場の実態は、利用者は必要なサービスが受けられているとは言えない状況だという。例えば、利用者が精神的な支えを求めている場合でも、話を聞く、話し相手になるサービスはヘルパーに認められていない。利用者の介護度だけでサービスの使える量が決められる今の制度は、画一的で、利用者一人一人は環境も違えば必要とするニーズもさまざまなのに、トータルにかかわり必要に応じたきめ細かなサービスを保証できないところのジレンマは大きいという。

事情により半年前にその職場を辞め、少しでも長く働ければと今の職場に採用された。今の事業所は、生活保護世帯の利用者も多く、高齢者の貧しい生活を目のあたりにするという。国はサービスの個人負担を増やし、使えるサービスは減らしていく方向で改変を進めている。ますます安心できる老後は遠のいていくというのが彼女の実感。

「福祉職場で働き続けてきたが、年金は60歳からもらえたとしても6万円もあるかどうかわからない。体が許す限り働こうと考えている」と、とつとつと語る彼女を見ていると、福祉・介護で働く人が大切にされていない社会であり、それは高齢者を大切にしない社会なのだと強く感じさせられた。

取材・文 おおた幸世



## 母を看取って

### ちょっと感じていること

この1年あまりの母の入院・死・葬儀・その後の片付けの中で、感じること・考えることの一つ二つを書いてみます。

「どんな最期にしたいのか（どこで死にたい・延命治療は?）、お葬式はどんな風にしたいのか」など、生前から考えて希望を伝えておこうと言われて、この頃エンディングノートが書かれているようです。自分の最期を考えることは残りの人生をどう生きるかということでもあり、それなりの意味のあることだと思います。が、お葬式や最期の迎え方は必ずしも自分一人の問題ではないでしょう。そこには看病する家族・見送る家族の思いもあります。この家族の思いが受け入れられると、大切な人を失った時の喪失感がいくらか埋められるのではないのでしょうか。

「母の死」を経験する中で、自分の最期・葬儀に関する希望は家族や周りの人を縛らない程度に伝えておけたらいいなと思っています。「私はこう思うけど、あなたたちの思いも入れて決めてね」という話ができたらいいな。そんな関係でいたいな、と思っています。母の時はほとんど子ども達の思いでしてしまったけれど…

今、「その後の片付け」に直面しています。父・母・子ども2人の生活から、子どもがそれぞれ独立し、父が亡くなり、今回母が亡くなりました。そして母が生活していた家が所帯道具ごと残されました。たまたま良い出会いがあって、この家を借りて貰うことになり、私は中に残された所帯道具を処理しなければならなくなりました。先日、

### やまだ よしこ

フリーマーケットに出すものの選別・整理を手伝いに来てくれた友人が、作業をしながら「これって生活を閉じるということやね。たいへんやなあ」と言いました。「生活を閉じる」という言葉がずしっと心に響きました。

現在のように子どもが独立して生活していると、親世代が亡くなるとその家や所帯道具を処理することにならざるを得ません。多くは捨てることになるでしょうが、この選別・整理は結構エネルギーのいることです。私は近くに住んでいるし、家を貸すまでに時間もあるので、気持ちの整理をしながら少しずつゴミに出しています。家具や食器や台所用品、頂き物やお土産の雑貨などを整理しながら、ここにあった生活を思い出します。その生活が終わります。この作業はまさに一組の夫婦（一つの家族）の生活を閉じるということだなと思います。

かくいう私もやがて子ども達に「生活を閉じて貰うことになります。そのときのために「晩年はできるだけ身軽になっておこう」と思います。手紙や写真・日記など残った家族が処分しにくいものは自分で処分しておきたい。普段の生活で使っていないものは相手の意向を確かめながら差しあげたり、バザーに出したりしておこう。「いつか使うかも」「もったいない」と片付けておくのはもってのほかだ。「使う」のは今でしょう!! これからは、物を増やすのではなく、旅行に行ったり演劇を見に行ったり、心を豊かにする生活をしたいと思っています。

#### 福島原発賠償訴訟原告

を囲む集い

10月29日(火)午前10時~12時

サンプラザ市民センター (第3集会室)

お話：森松明希子さん

(大阪地裁原告団長)

参加費：300円 (震災避難者は無料)

(もんじゅ DVD「問われる叡智・明かされる真実」の映写も行います)

案内

#### 放射能内部被曝

・健康被害学習会

11月2日(土)午後6時~

サンプラザ市民センター (視聴覚室)

お話：入江紀夫さん (小児科医)

参加費：300円 (震災避難者は無料)

(福島の子ども達に「小児甲状腺がん」が異常多発しています 私たちに何ができるか一緒に考えましょう)

9月15日 大飯原発4号機が止まる日、原発再稼働反対・廃炉を求める集会・デモに参加 台風18号による大雨・風にかかわらず参加した約200人で大阪西梅田までデモ行進。また関西電力本社前での稼働停止のカウントダウン集会にも多くの多の方々に参加。人々の粘り強い運動が、再び原発稼働ゼロの日を生み出した。この力を大きくしたい。

9月22日 ひらかたNPOフェスタ 前日の会場設営のテント張り、椅子・机運びなどから参加。当日は、イラク平和テレビ in JAPAN ひらかたとして『イラクと日本の若者たち—平和と希望をつくる』上映会と、マスコミでは伝えない『ほんとうのフクシマ』写真展を行った。写真を見て福島の子供たちが置かれている状況が分かったなどの感想が寄せられた。50枚用意した感想用紙が足らなくなった。何か心に感じるものをもって帰られたようだ。写真の力は大きい。事実を市民が知れば大きな力になる。そのための発信を続けたい。

9月23日 もんじゅを廃炉に関西集会・デモに参加 原発「もんじゅ」は、ナトリウム爆発や3トンを超える装置の落下などで、長年動いていない。さらに、14316件の点検漏れなどずさんな管理をしている。再稼働などもつてのほかだ。しかし、政府は再稼働へ向けて研究予算をつけている。1995年の稼働開始後、ほとんど動いていない「もんじゅ」の維持費に毎日約5000万円もの税金を使っている。税金の無駄遣い。「もんじゅ」は廃炉しかない。

9月24日 市議会で一般質問に立つ 詳細は議会報告参照してください

9月28日 「集団的自衛権行使は、『合憲』なのでしょうか？」の学習会に参加 講師は「平和と生活をむすぶ会」の豆多さん。安倍内閣が進めている「集団的自衛権行使」の容認は、9条の戦争放棄を骨抜きにして実質改憲になること。安倍の狙いは、「日本のグローバル資本の権益を第一に、市場・資源を確保・擁護するために自衛隊を制約なく海外に出動させ、軍事行動＝武力行使ができるような態勢を構築していくこと」であることを確認した。

9月29日 山之上小学校の運動会に参加 お天気に恵まれ、子供たちはのびのびと動いていた。つい6か月前に入学した1年生が、徒歩競争や団体演技にどの子も精一杯頑張っていた姿が印象に残った。子どもの成長は早い。

10月1日 議会改革調査特別委員会に意見書を提出 内容は、①本会議前に開催前に、市民に意見表明をする時間を保障すること ②陳情についても、請願に準じた扱いをすること ③意見書の賛否についても、各議員の賛否を公開することなど9項目

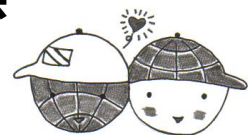
9月25日 9月分議員報酬から223,880円を大阪法務局に供託



一般質問に立つ9月24日

## 平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 松本 健男 (弁護士)  
 家高 憲三 (元教育長)  
 黒田 薫 (平和都市ひらかたを考える市民の会)  
 鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)  
 おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)  
 事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)



「会」のシンボルマーク  
塔本賢一さん作

〒573-1197 枚方市禁野本町1-5-15-106 市民の広場“ひこばえ”

TEL&Fax 072-849-1545

毎月の配布を希望される方、または配布を希望されない方はお手数ですがご連絡ください。